

第6回厚生常任委員会会議録

- 1 開会日時 平成28年6月20日(月)午前10時0分
- 2 閉会日時 平成28年6月20日(月)午前11時21分
- 3 会議場所 議会委員会室
- 4 出席委員
5番 丸山 明君 7番 原田 素代君 11番 福木 京子君
13番 岡崎 達義君 15番 小田百合子君 17番 金谷 文則君
- 5 欠席委員
な し
- 6 説明のために出席した者
市 長 友實 武則君 副 市 長 内田 慶史君
市民生活部長 新本 和代君 保健福祉部長 石原 亨君
保健福祉部参与 岩本 武明君 赤坂支所長兼 正好 尚昭君
熊山支所長兼 入矢五和夫君 市民生活課長 吉井支所長兼 荒島 正弘君
市民生活部参与 市民 課 長 作本 直美君 市民生活課長 協働推進課長 塩見 誠君
環 境 課 長 黒田 靖之君 社会福祉課長 国正 俊治君
子育て支援課長 国定 信之君 健康増進課長 谷名菜穂子君
介護保険課長 藤原 康子君 熊山支所 市民生活課長 稲生真由美君
赤坂支所 健康福祉課長 中永 光一君 熊山支所 健康福祉課長 井本 輝夫君
吉井支所 健康福祉課長 石原万輝子君
- 7 事務局職員出席者
議会事務局長 奥田 吉男君 主 査 青木 智彦君
- 8 審査又は調査事件について
1) 議第43号 平成28年度赤磐市一般会計補正予算(第2号)
2) その他
- 9 議事内容 別紙のとおり

午前10時0分 開会

○委員長（原田素代君） 皆さんおはようございます。

ただいまより第6回厚生常任委員会を開会いたします。

開会に先立ちまして、友實市長より御挨拶をお願いいたします。

○市長（友實武則君） はい、委員長、市長、友實。

○委員長（原田素代君） はい、友實市長。

○市長（友實武則君） 委員の皆さん、おはようございます。

今日は、まことに御多忙の中、第6回の厚生常任委員会をお開きいただきましてありがとうございます。

なお、きょうの御審議、御協議いただく内容についてでございますけれども、議第43号の赤磐市一般会計補正予算並びに平成28年度事業の進捗状況及びその他について御報告等させていただき予定としております。どうぞよろしくをお願いいたします。

そして、報告が2件ございまして、私のほうから報告させていただきます。

まず1件目は、5月29日に開催されました岡山県消防操法大会に赤磐市の代表といたしまして吉井方面隊第1分団第3部が出動いたしました。皆様方には温かい御支援と御声援を賜りました。まことにありがとうございます。この場をおかりしてお礼を申し上げます。ちなみに成績でございますけれども、6位以上は発表されておりますがそれ以降は正式な発表はございませんが、内々にお伺いしたところ9位という成績だったということを知っておりますので御報告させていただきます。

それともう一件でございますけれども、委員の皆様方の机の上にお配りさせていただいておりますけれども、このたび油井宇宙飛行士の講演会、これが赤磐市で開催されることと相なりました。日時は7月22日の金曜日、午後6時半から8時ということで、山陽ふれあい公園のフィットネスアリーナを予定しております。700人の参加を予定しております、赤磐市の子供たちあるいはその親御さんあるいは全ての市民の皆さんにこれを聞いていただいて、宇宙開発等に対する夢を持っていただきたいなと思っている次第でございます。これについては、JAXAの都合がまだまだわかりません部分がありますが、7月22日の日程ということなんですけど、打ち上げ等のスケジュールで変更になる可能性もあるということは少し含んでおいていただければと思います。いずれにしても、日本全国で数カ所しか開催されないこの講演会が、ここ赤磐市で開催できることになったことについて皆さんと一緒に喜びも共有しながら盛り上げていければと思っておりますので、周知等の御協力をよろしくお願い申し上げます。

私のほうからは以上でございます。きょうはよろしくをお願いいたします。

○委員長（原田素代君） ありがとうございます。

それでは、これから委員会の審査に入ります。

当委員会に付託された案件は、議第43号平成28年度赤磐市一般会計補正予算（第2号）の1

件であります。

それでは、議第43号平成28年度赤磐市一般会計補正予算（第2号）を議題とし、これから審査を行います。

執行部のほうからの補足説明がありましたらお願いいたします。

○市民生活部長（新本和代君） 委員長、市民生活部長、新本。

○委員長（原田素代君） はい、新本部長。

○市民生活部長（新本和代君） このたび市民生活部のほうからの補正予算は1件でございますが、補正予算の第2号の7ページの20款の諸収入でございます。それから、歳出でございますが、10ページの民生費、地域振興費でございます。それから、細かい説明につきましては、補正予算の説明資料の12、13ページのほうに記載しておりますので、これを見ていただければもう追加説明のほうはございませんので、よろしくをお願いいたします。

○委員長（原田素代君） ありがとうございます。

○保健福祉部長（石原 亨君） 委員長。

○委員長（原田素代君） はい、石原部長。

○保健福祉部長（石原 亨君） 保健福祉部からも1件、補正予算をお願いしております。

社会福祉法人が行う認定こども園の施設整備に対する補助金として、ページの10ページ、保育所等施設整備補助金として1億2,364万3,000円を計上しております。これに対する国庫補助金としまして3分の2の補助率で、ページが6ページでございます、民生費国庫補助金保育所等整備交付金ということで1億990万5,000円を計上しているものでございます。

以上でございます。

○委員長（原田素代君） 執行部のほうからの説明が終わりました。

それでは、委員さんのほうからの御質疑をお願いいたします。

はい、丸山委員どうぞ。

○委員（丸山 明君） 本会議で御説明をいただきましたので、概略は承知しました。それで、僕覚えてないんですけど、言われたかもしれないんですけど、これのおよその1億2,300万円の補助金ということなんですけど、それで桜が丘にも新しく市の用地につくられるということはわかりました。90人を収容だというふうなことだったと思います。概略で結構なんで、およそスケジュールがどんなふうになったか覚えてなくて、大体の予定を教えてくださいというふうに思います。

○子育て支援課長（国定信之君） 委員長、子育て支援課、国定です。

○委員長（原田素代君） はい、国定課長、お願いします。

○子育て支援課長（国定信之君） それでは、この保育園いちょうの森こども園という名称がついておりまして、今後のスケジュールにつきまして御説明をさせていただきます。正式な国からのほうの内示のほうが今月中におりてくる予定になっておりまして、それに基づきまして

これからこちらの法人のほうで建築に向けた事業者との契約、設計のほうを始めてまいります。それで行いまして、着工のほうが7月末の予定だというふうに聞いております。それが完成する予定が2月末になるということで、来年4月の開設というふうな予定になるという計画で進められておられます。

以上です。

○委員（丸山 明君） はい、ありがとうございました。

○委員長（原田素代君） よろしいですか。ほかの方で御質問や御意見がありましたらお願いします。よろしいですか。

○副委員長（福木京子君） ちょっと前ですね。詳しく。

○委員長（原田素代君） はい、どうぞ、福木委員。

○副委員長（福木京子君） これは、幼保の保育園のことなんですが、あそこが桜が丘東ですよ、それで幼保というのは初めてのことなんですけど、桜が丘全体の将来的な構想みたいなというんですか、その辺は大体見通しを持っておられるんでしょうか。本会議でも質疑が、その定数90でいいのかどうかというのもあったもので。それで、山陽地域のほうは幼稚園が2つと保育園が2つです。それから、東のほうが今のところ幼稚園が1つ、それから保育園が2つ、それから幼稚園が今回保育園と一緒に分ができたということですから、将来的には全体的な計画としてはどういうふうな状況ですか。

○子育て支援課長（国定信之君） はい、委員長、子育て支援課、国定です。

○委員長（原田素代君） はい、国定課長。

○子育て支援課長（国定信之君） 今回桜が丘のこちらの3丁目のほうに建設をしたということにつきましては、現在桜が丘東の1から3丁目のほうが子育て世帯のほうの増加をしているということで、こちらの各町内会ごとの現在までの転入の状況を調べましても、かなり増加をしているという状況がわかっております。ということで、今回は1丁目から3丁目につきましては特に対応を行うということを中心に整備を行うというものでございます。それで、桜が丘全体の計画ということについては明確な見通しを立てているわけではございませんが、現在それぞれの保育園のほうで状況といたしましては、現在の定員を超える人数を大体受けているという状況でございます。それは、施設の規模であるとか、保育士の配置の基準に基づいて増加をさせているという状況がありますので、特に桜が丘東地域を中心につきましては今後とも増加をしていくというふうに考えております。桜が丘西地域につきましては、転入のほうはかなりおさまっているということで、そんなにふえていかないものではないかというふうに考えておりました、今回東地域の整備をするというふうに考えております。

○委員長（原田素代君） はい、福木委員、どうぞ。

○副委員長（福木京子君） 転入の状況なんか見ながら対応をされておられるのはわかります。それで、今後東がまだふえる可能性もあるんですけど、あれは幼稚園の保育の用地みたい

なん何か全体の計画はなかったですか、東は。あと今後の用地の目的のあれはなかったでしょうか。

○子育て支援課長（国定信之君） はい、委員長。

○委員長（原田素代君） はい、国定課長。

○子育て支援課長（国定信之君） 用地につきましては、現在あいていた保育園用地がありました。もう一カ所もう少し北のほうだったと思いますけど、保育園用地ということで1件用地のほうがあります。

○委員長（原田素代君） よろしいですか。ほかはないでしょうか。

そしたら、1つだけ議場での質疑のやりとりが中途半端だったなあと思っていて気になっているので、きちんと委員会で確認をしたいと思うのですが。

今議題になっておりますいちょうの森こども園の保育料の収集方法について、従来と今回このこども園になることで変わるということについてもう一度確認をしたいので、保育料の収集方法についての御説明を求めます。

○子育て支援課長（国定信之君） はい、委員長、子育て支援課、国定。

○委員長（原田素代君） はい、国定課長。

○子育て支援課長（国定信之君） 今回開設されますのが、私立の幼保連携型の認定こども園ということになります。認定こども園ということにつきましては、それぞれ入園についても保護者とその認定こども園との直接の契約によって入園のほうが確保されます。それに伴いまして、保育料につきましても認定こども園のほうは市のほうで決定をするんですけど、徴収等につきましては認定こども園のほうが直接保護者の方に支払いのほうを受けて納めるということになっておりますので、あのときの審議にもありましたように、市が直接保育料を徴収している現在の形よりはより保護者の近いところでそういった徴収が行われるということで、徴収率の向上については期待をしているという状況です。

○委員長（原田素代君） ありがとうございます。その他のところで、皆さんのほうからはよろしいですか。ございませんか、今回の議案については。

○委員（丸山 明君） その他っていうのは。

○委員長（原田素代君） ですから、今回の議案になってるところです。28年度の補正です。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） わかりました。

それでは、質疑がないようですので、これで質疑を終わります。

それでは、ただいまから本委員会に付託されました議第43号平成28年度赤磐市一般会計補正予算（第2号）の1件について採決したいと思います。

議第43号平成28年度赤磐市一般会計補正予算（第2号）について、これを原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○委員長（原田素代君） ありがとうございます。起立全員です。したがいまして、議第43号は原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上で当委員会に付託された議案の審査は全て終了いたしました。

次に、閉会中の継続調査及び審査についての御確認をお願いしたいと思います。

お手元に配付しております継続調査及び審査一覧表のとおり、議長に対し閉会中の継続調査及び審査の申し出をいたしたいと思いますが、これでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） それでは、このように申し出をいたします。

なお、委員長報告については委員長に一任させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） それでは、そのようにさせていただきます。

それでは、4のその他で委員さんまたは執行部から何かありましたら、よろしく願いいたします。

○市民生活部長（新本和代君） 委員長。

○委員長（原田素代君） はい、新本部長。

○市民生活部長（新本和代君） それでは、平成28年度の進捗状況ということで協働推進課のほうから3件について御報告をさせていただきたいと思いますので、よろしく願いします。

○協働推進課長（塩見 誠君） 委員長、協働推進課、塩見。

○委員長（原田素代君） はい、塩見課長。

○協働推進課長（塩見 誠君） それでは、協働推進課より3件お知らせをさせていただきます。

本日お手元にお配りいたしております厚生常任委員会資料の中の市民生活部の冊子をごらんいただければと思います。

表紙をはぐっていただきまして1ページであります。まずまちづくりのワークショップの開催についてでございます。これにつきましては、協働のまちづくりを市として進めておりますが、そのまちづくりの底上げを図るために人材発掘と育成ということで、日ごろまちづくりにつきまして意見を発表する機会が少ない若者の方、具体的には18歳から35歳の方を対象といたしまして、御意見をいただきながら本市の地域活性化につなげていくことを目的に開催を予定させていただいております。

2番目に具体的な日程といたしましては、7月31日の日曜日及び8月7日の日曜日ということで、午後から中央公民館（後刻訂正）で連続講座として2回を一つのパックといたしまして実施を予定させていただいております。対象といたしましては、先ほど申しましたように18歳か

ら35歳までの市民の若者の方30人ということで、住民基本台帳から無作為に抽出をさせていただき予定にしております。この機会につきまして、まちづくりにつきましてさまざまな意見をいただけることを期待をいたしております。

具体的な内容といたしましては下の4番にございますが、第1回目はオリエンテーションといたしまして、市のほうで総合戦略であるとか人口ビジョンのほうの策定をしておりますのでそのあたりの御紹介をさせていただきまして、後半といたしましてワークショップといたしまして、若者が活躍できる住みたいまちってどんなまち、これは今仮称でございますが、このようなテーマを設けてワークショップを予定をしております。2日目といたしましては、第1回目のワークショップを引き続き続けまして、最終的に後半のほうでは成果発表ということでワークショップの成果を若者の方から御意見をいただく予定にいたしております。市といたしましてもこのワークショップを通じまして、現在市が事業を展開しておりますがそれにつきまして若者の方がどういうふうに思っているかという市の事業の検証や、若者の御意見を聞きまして施策に反映できることがないか、そしてまちづくりのリーダーとなる今後の若者の人材の発掘なども行うことができると考えておりまして、今回のワークショップの開催を予定させていただいております。

1ページはぐっていただきまして、これ赤磐市の男女共同参画セミナーにつきまして、2ページ、3ページで第2回、第3回の内容の御案内をさせていただければと思います。

まず、第2回目といたしましては、イクメンさんいらっしゃい!!もっとパパを楽しもう!!絵本の読み聞かせセミナーと題しまして、7月2日の土曜日に中央公民館（後刻訂正）でファザーリング・ジャパン関西副理事長和田憲明様をお迎えをいたしまして開催をしております。

○委員（小田百合子君） さっきから中央公民館って言うてるけど、どっちも図書館でしょ。

○委員長（原田素代君） えっ。

○協働推進課長（塩見 誠君） 中央図書館です、済みません。

○委員（小田百合子君） ねえ、さっきも中央公民館って言われて。

○委員長（原田素代君） ああ、本当、ごめん、全然聞き流してた。正確をお願いします。

○協働推進課長（塩見 誠君） はい、済みません。先ほどのワークショップにつきましても中央図書館でございます。失礼いたしました。訂正させていただければと思います。

今回のセミナーにつきましても、中央図書館でファザーリング・ジャパン関西副理事長和田憲明様を迎えて開催を予定をしております。内容といたしましては、絵本の世界は子どもたちとの距離を縮めるということで、ちょっとしたきっかけで絵本の読み聞かせ時間が楽しくなるなどお父さんの子育てについて語っていただく予定にいたしております。

1ページはぐっていただきまして3ページであります。第3回目といたしまして老若男女あつまれ!災害が少ないまちで考える避難所運営と題しまして、8月24日の水曜日にこれも中央図書館でNPO法人まちづくり推進機構岡山代表理事徳田恭子さんをお迎えをして開催を予

定をいたしております。内容的には、避難所におきまして少しでも生活しやすくするために意見を出し合い、カードをめくりながらいろいろな立場の人が考える避難所運営ゲームということで、このカードにつきましては避難者の現在の被災状況などが記載されておきまして、そのカードによりまして現在避難してきた場所のどのあたりへおっていただくかということを考える予定にしております。この研修を通じまして、避難所におきます年齢、性別、障害などを考慮いたしました人権尊重を考える機会になればということで開催を予定をいたしております。

最後のページ4ページであります。これは人権標語の募集につきましてお知らせをさせていただきます。

これは、人権につきましての理解と認識を深めるとともに、市民一人一人の人権意識の高揚を図ることを目的に毎年実施いたしております。標語のテーマにつきましては人権にかかわるものということで、募集対象といたしましては一般、またその他別途で小中学校におきましても募集を行っております。一般の部といたしましては、9月2日を締め切りにさせていただいております。あと今後の標語の活用といたしましては5番、6番にありますように、12月4日に開催を予定しております「人権を考えるつどい」におきまして表彰式を行うとともに、来年度の人権啓発カレンダー及び年を明けまして1月に開催を予定しております人権啓発作品展などに展示を行う予定にしております。この募集につきましては、広報あかいわ7月号で募集記事のほうを掲載をさせていただきます。周知を図っているのが現在でございます。そのほか、この標語以外に人権啓発ポスター及び作文につきましては、別途小中学校を通じまして生徒さんに募集を行っている現状であります。

以上、協働推進課より3点お知らせをさせていただきます。

○委員長（原田素代君） ありがとうございます。

ここでちょっと、とりあえず質問などありましたら皆さんのほうから出していただければ、今の3点の報告について。特別ないのですか。

○副委員長（福木京子君） ちょっと。

○委員長（原田素代君） はい、福木委員。

○副委員長（福木京子君） 若者のまちづくりの18歳から35歳まで無作為抽出で30人、見通しは何かありそうなんですか。

○委員長（原田素代君） 見通し。もうちょっと。

○副委員長（福木京子君） わかんないけど。

○委員長（原田素代君） 来るのかなってということ。

○副委員長（福木京子君） そうそうそう、何人かに、30人じゃなくてもっとたくさん出して、そのうち大体30人ぐらいを来ていただくようにするんですか。初めての取り組みだからどんなぐらいかなって思っています。

○協働推進課長（塩見 誠君） 委員長、協働推進課、塩見です。

○委員長（原田素代君） はい、塩見課長、どうぞ。

○協働推進課長（塩見 誠君） 先ほどの人数、30人ということで定員をさせていただいております。今回、全く初めての試みでございまして、無作為に通知を差し上げましてその中から来ていただける方を抽出するというので、30につきましては今こういうふうな同じスタイルで対象をするような会議の過去のデータを求めますと、大体通知を出しまして5%ぐらいの人がその御案内のほうに来ていただけるというのが全国的なデータでございまして、今回実は600人ほど通知を差し上げまして5%ぐらいの中で30人ほど来ていただけるんじゃないかということで検討のほういたしております。

以上です。

○副委員長（福木京子君） はい、よろしい。

○委員長（原田素代君） いいですか。

ほかにないようでしたら、ちょっと私のほうからも3つほどお聞きしたいんですけど。今のこの協働のまちづくり事業ですが、まず今もお話があったように初めての企画ということで、これは将来的にどういう位置づけにされるつもりなのか、やってみてその上で考えるということなのかどうか。要するにこういう事業を長期的な視点で定期的にやりたいと思っているのか、まだそれまでは結論出てないのかその点。それから、進行方法についてお尋ねしたいんですが、4番の内容のところでもまずオリエンテーションがあってワークショップということで、このオリエンテーションもワークショップも含めまして赤磐市はかなりの予算を使ってファシリテーターという講座を開いて、訓練を受けたリーダーさんを輩出していますが、その点ではファシリテーターの手法を使った運営になるのかならないのか、そういう市民の方たちの協力を得る予定があるのかないのかを聞きたいと思います。それから、最終的にこの結果についての内容がどんなものだったのか、市としてはこういう狙いがあったけど内容の結果としてはこうだったという報告をいただきたいと思うのですが、その予定があるのかないのか。その3つについて教えてください。

○協働推進課長（塩見 誠君） 委員長。

○委員長（原田素代君） はい、塩見課長。

○協働推進課長（塩見 誠君） 3点御質問ございました。

まず、将来への位置づけということで、この事業につきましては何しろ若者を対象にして初めてをさせていただきますので手探りなところもございまして、こういうふうな若者の人材発掘というのがなかなかできていないような現状がありますので、今回参加していただいた方の中で将来市のいろんな審議会のほうに若者として意見が言えるような立場になっていただくとか、それからあとまちづくりを推進するに当たってリーダー的な位置づけの方になっていただけるような方を発掘できればいいなということを思っていると同時に、市の事業につきましての若者としてこの事業はいいが、この事業はいけないというような検証もお願いできればと考

えております。将来的に今回1回行いまして、内容的に好評でございましたら来年度以降も引き続き継続してまいりたいと考えております。進行方法につきましては、現在は第1回目、第2回目とも協働推進課の職員が主体となりまして会の進行を考えておりますが、ファシリテーターの手法もございますので今後2回目以降につきましては、これも検討をさせていただければと思います。具体的にこのワークショップで出ました内容につきましては、また後日厚生委員会のほうで報告のほうさせていただければと思います。

以上です。

○委員長（原田素代君） ありがとうございます。

その他でもよろしいですか、皆さんのほうから御質問は。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） ないようですので、じゃあ、またもう一つ保健福祉部のほうからお願いします。

○子育て支援課長（国定信之君） 委員長、子育て支援課、国定。

○委員長（原田素代君） はい、国定課長。

○子育て支援課長（国定信之君） それでは、子育て支援課から赤坂地域保育園の統合事業の進捗状況について説明させていただきます。

保健福祉部資料の1ページのほうごらんください。

まず、赤坂地域統合保育園建築工事の入札結果ということで説明させていただきます。

5月のこちらの委員会のほうで御説明をさせていただきました園舎建築工事の入札につきましては、今回入札の参加を表明されましたこちらの3カ所に表示しております株式会社小倉組・有限会社伊賀建設の共同企業体、それから山陽建工株式会社と株式会社西山組の共同企業体、そして中国建設工業株式会社と有限会社コアズ・コーポレーションの共同企業体、この3つの参加者によりまして6月15日に開札のほうを行いました。この3つの共同企業体から提示されました入札額につきましては、表示しております予定価格を超える価格が提示されたということになりまして、入札のほうが不落となってしまいました。現在、設計内容につきまして、委託事業者とともに調査を行い原因を究明しております。原因が明確になりましたら、今後の推進方法も含めて御報告をさせていただきたいと思います。また、前回の委員会のほうで、契約議案につきまして今回の議会の最終日に上程をさせていただく予定でありましたが、申しわけありませんが上程のほうは見送るということにさせていただきたいと思います。

続きまして、地域説明会につきまして説明をさせていただきます。先日、赤坂地域で地域説明会のほうを開催いたしました。今回は工事の進捗状況や園舎の設計内容、また認定こども園としての運営計画案について、地域の方々の御意見をいただくという目的で開催をいたしました。6月11日の赤坂健康管理センターには参加者が26人、また6月14日の笹岡公民館には9名の方に参加をいただいております。この説明会でいただいた意見についてですが、幾つか紹

介します。認定こども園の幼稚園部の入園希望者が多かった場合には入園ができなくなるのかという質問もありまして、これにつきましては受け入れ体制を十分確保して希望に沿えるように対応していきたいとお答えをしております。また、今回新たに始める病児保育事業につきましては、通園する前から調子が悪い児童を受け入れられるのかという質問に、当面は保育中に調子が悪い園児を対象に保護者が迎えに来られるまで対応する形でスタートさせたいということで、これについては徐々にサービスの提供を上げていきたいというふうに回答をしております。また、現地用地の洪水対策であるとか運動会の実施方法、認定こども園のカリキュラムについての御意見や、また説明会の開催についてやっていただきたいというふうな御意見のほうをいただいております。

以上、赤坂地域の保育園の統合事業について、進捗状況の説明とさせていただきます。

○委員長（原田素代君） はい、谷名課長。

○健康増進課長（谷名菜穂子君） 済みません。健康増進課のほうからは、2ページの赤磐市健康増進計画（第二次）の作成について御説明したいと思います。

この計画の位置づけですが、健康増進法第8条第2項に定める「市町村健康増進計画」として位置づけられており、市民の健康の保持増進のための総合的な計画で、赤磐市の総合計画を初めとするさまざまな分野の行政計画と関連づけて赤磐市における健康づくりのビジョンを示すものです。

2番といたしまして、計画実施期間は平成29年度から平成38年度までの10年間といたします。その間に平成33年度には、中間評価を実施する予定です。

3番目といたしまして、計画作成のポイントを少し上げてみました。この計画作成においては、やはり1番は市民が主役ということで、市民のアンケートを実施したり、聞き取り調査を実施したり、市民の声を反映したものにしていきたいと思っております。2番目といたしまして、市民の健康づくりを地域社会全体でサポートする環境づくりということで、地域組織、行政、医療機関、商工会代表などで構成される赤磐市地域医療ミーティング推進協議会を中心に検討を進め、市民協働の健康づくりを目指していきたいと考えております。また、3番目といたしまして、予防活動の重視ということで、死亡原因や寝たきりの原因となる多くの疾病は日ごろから健康的な生活を送ることにより健康寿命を延伸し予防できると言われております。平成18年度に作成した赤磐市健康増進計画の第一次の評価や、社会情勢の変化を検証するとともに、望ましい生活習慣を改善し、予防活動を重視する計画としたいと考えております。また、4といたしまして、ほかの行政計画との整合をしっかりと見ていながら進めていきたいと思っております。皆さん御存じのとおり、計画の策定に当たっては国が出している健康日本21や第二次健康おかやま21に加えまして、昨年度計画を作成いたしました第2次赤磐市総合計画や子ども・子育て支援事業計画、また高齢者福祉計画・介護保険事業計画あるいは特定健康診査等実施計画、データヘルス計画などとの整合性をしっかりと図りながら健康増進計画を作成したいと考え

ております。また、5番といたしまして、関連する計画を取り入れた内容ということで、母子保健計画や食育推進計画は健康増進計画の具体的取り組み内容と関連が深く、今回の計画と一緒に盛り込んだ内容としていきたいと考えております。

4番目といたしまして、今後の予定を報告させていただきたいと思っております。

7月、8月ぐらいでアンケートを実施したいと考えております。対象者は子育て中の保護者、小中学校、高校生。一般成人の方にはアンケートを無作為抽出で実施したいと現在考えております。9月の秋ぐらいにはアンケートを集計し、計画素案の協議・作成をしたいと思っております。10月の厚生常任委員会に御報告できたらなあというふうに思っております。また、12月には計画素案を協議・作成しパブリックコメントを実施し、3月には計画書を完成したいということで計画を進めております。先日、この健康増進計画のコンサルタント契約をしたばかりで、プロポーザルを6月2日に実施いたしました。3社来ていただきまして、ジェイエムシー株式会社、高知県にある会社なんですけど、そちらのほうと契約をいたしまして事業を計画的に進めていきたいと考えているところです。

以上です。

○委員長（原田素代君） 2点について報告がありましたが、委員の皆さんのほうからの御質疑をお願いします。

○委員（丸山 明君） はい。

○委員長（原田素代君） はい、丸山委員。

○委員（丸山 明君） 赤坂地域の保育園の統合事業なんですけど、これ不調に終わったということです。2億8,000万円弱の予定価格をオーバーしてしまったということなんです。ですから、3社とも、3グループとも落ちなかったということなんですけど、心配なのが来年の3月末が一応完成予定です。ですから、おくれればそれだけ工期がタイトになるわけで、余裕があるほうが多分建築会社にとってはありがたい話なんだろうと僕思うんです。これでも予定をいろいろされて、設計をされて、予定価格も出されてるわけですから、不調だったということががっかりなんですけども、見通しとしてはどうなんですか。これで調整するんだということなんですけど、こういう額をこのままいってうまくいけばいいですけど、難しいみたいな話になったらこれまた困ったことになるわけですから、その分向こうへ押してしまうんです、工期を。そういうことになるんじゃないかと思うんで、そのあたりちょっと、課長、見通しといたしますか、どういうふうな感じになるのかなあというのを教えてください。

○子育て支援課長（国定信之君） 委員長、子育て支援課、国定。

○委員長（原田素代君） はい、国定課長。

○子育て支援課長（国定信之君） ありがとうございます。今回入札のほう臨みましてところ、不落になったということで大変申しわけなく思っております。その原因につきましては、なぜそういうふうになったのかっていうところにつきましてはいろいろ考えられるんですけ

ど、いましばらく時間のほういただきまして究明のほうさせていただきたいと思っております。

○委員（丸山 明君） 原因よりも見通しのほうを。

○子育て支援課長（国定信之君） はい。それで、今後のその開園に向けてのスケジュールということになってくるかと思いますが、現在の計画では4月開園を目指して工期をつくっております。今回それが不調になったということで、4月開園については非常に厳しい状況になっているという状況で現在考えております。具体的にじゃあいつになるかということにつきましては、その原因の究明とあわせて、それから今後はそれに対してどういう入札をするのか、また入札の後に工事契約の議決の時期も関連してきます。そういったあたりを考えて現在検討しておりますので、その結果につきましてはまた報告させていただきたいと思っております。

以上です。

○委員（丸山 明君） はい。

○委員長（原田素代君） はい、丸山委員。

○委員（丸山 明君） 僕、びっくりするんですけど、開園が今回の入札不調の結果、私はその予定は変わらないと思ってたんですけど、それじゃあまことに不手際に終わったわけですよ。結局こちらが設計といろいろな条件を織り込んで、これで行けると踏んでたものが実際には建築会社はだめだという結果になって、3社ともなってるわけですから大変不手際だというふうに思います。スケジュールでやっていくのが、そりゃもうとっても大事なことから。困難になったと、来年の4月開園できないと、これとっても困った状況が生まれます、実際問題。どうされるおつもりなんですか。具体的に教えてください。

○委員長（原田素代君） はい、国定課長。

○子育て支援課長（国定信之君） 現在のところ4月開園は厳しい状況になってるところ、ここまでしか現在のところ言えない状況にあります。今後そのあたりどう進めていくかをしたいと思っておりますが、開園時期の設定につきましては4月を目指して進めていきたいという説明をしてきておりますので、それがずれていった場合どういったやり方ができるのか、特に今回幼稚園部ということもありますので教育委員会のほうとも協議をして検討いたしまして、保護者の方のほうにもそういった説明をしていきたいと考えております。

以上です。

○委員長（原田素代君） ほかにありますか。

はい、丸山委員。

○委員（丸山 明君） 現場の話は私もわかりました、そりゃあ。しかし、これどうなんですか、市長、そのあたりはそれでもう仕方がないんだということなんでしょうか。見解というか、御所見をお願いします。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（原田素代君） はい、友實市長。

○市長（友實武則君） まず、いろんな意味で御心配をおかけして申しわけございません。先ほど担当課長が説明しましたけども、この入札不調によって工期、平成29年3月31日が厳しい状況になっているということには間違いございません。そうした中で、この後これが困難であればどう運営をしていくか、保護者の方々が御心配されていることかと思えます。そういった対応をどう対応していくか、これをしっかりと方針を立ててそして説明責任を果たしながらこの先予定を決めていきたいというふうに思っております。そのためにも、この不落がどこに原因があったのか、しっかりと追求する必要があるかと思えます。今それを調査している状況ですので、この後もうしばらくお時間をいただいて私どものほうでしっかりと対応していきたいと思えます。

以上でございます。

○委員（丸山 明君） はい。

○委員長（原田素代君） はい、丸山委員。

○委員（丸山 明君） 僕は今の御説明には納得できないんです。私も民間でずっと仕事をしてきましたけど、僕は業界が違っても一緒だと思うんです。予定をして、特に行政として公の仕事でやってるわけですから、それが不調になったからこれからというふうな悠長なことを言ってたんではそりゃあちょっと計画自体が疑われることになるわけで。僕なんかやってた納期おくれのときにどういう対応をするかということなんです。だから、絶対間に合わせないかんわけです、基本的には。約束して進めてるものは、基本的に4月が来たら子供たちは入ってきて、新しい入学、入園というような時期になるわけですから、僕なんかもそういう仕事を昔やったことあります。そんな最初からおおびをしていくみたいなことは考えられんわけで、何としてもそれを、納期っていうものをしっかり守りながらやるっていうのが私は基本だと思うんですけど、そういう認識はちょっと僕はびっくりしたんですけど。再度そのあたり、そんなんでいいのかなというふうに思いますが、もう一遍説明してもらえませんか。僕は何かおかしいんじゃないかと思えますけど。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（原田素代君） 友實市長。

○市長（友實武則君） いろいろ御指摘ありがとうございます。開園時期が来年の29年4月に予定してます。これを間に合わせるということは基本です。ですんで今厳しい状況だと申し上げましたけども、厳しいには違いないんですけども、まだまだ4月1日に向けての努力というものはしていく準備はございます。そうした中で、厳しいという表現を使わせていただいておりますけども、いろんな条件を考慮するとそういうことなんですけども、努力を怠らないということについてはそういう覚悟で臨んでいこうとは思っております。

以上です。

○委員（丸山 明君） わかりました、結構です。

○委員長（原田素代君） その他ではかの委員さんのほうからの御質疑ありませんでしょうか。

○副委員長（福木京子君） いいですか。

○委員長（原田素代君） はい、福木委員。

○副委員長（福木京子君） 今、丸山委員が言われた、これが開札日が6月15日ですから今5日たってます、きょうが20日です。その辺は急いで原因究明はされるにしても、本当日にちとの戦いと思うんですが、具体的にはどういうふうにするか。そのあたりをもう少し説明願わないと不安が出てくるので、その辺はどうなんでしょうか。

○子育て支援課長（国定信之君） 委員長、子育て支援課、国定です。

○委員長（原田素代君） はい、国定課長。

○子育て支援課長（国定信之君） 現在、業者から提出されました設計書類、あれだけの約3億円の工事になりますので膨大な量があります。その中で、それぞれの建設部材であるとかそれぞれにつきまして、どういった設計金額が出てきたのかというところを一件一件見ていっておりますので、少し時間をいただきたいという状況であります。今回入札が不落になったということで、今後早く進めていくためにも次回の入札に向けて適正な設計内容となるような原因究明が必要になると思いますので、現在その辺を取り組んでいるという状況でございます。

以上です。

○副委員長（福木京子君） はい、委員長。

○委員長（原田素代君） はい、福木委員。

○副委員長（福木京子君） そしたら、見通しとしては大分かかるということですか、その辺。丁寧にしていくんでしょうけど。見通し的にはどんなんでしょうか。

○子育て支援課長（国定信之君） 委員長。

○委員長（原田素代君） はい、国定課長。

○子育て支援課長（国定信之君） 見通しにつきまして、現在スタートしてるというところなんで今の時点ではっきりしたことは申し上げられませんが、早急に判明していきたいと考えてます。

○委員長（原田素代君） どうですか。はい。

その他、保健福祉部関係ではほかにはよろしいですか。

○副委員長（福木京子君） いいですか、委員長。

○委員長（原田素代君） はい、福木委員。

○副委員長（福木京子君） 健康の関係で、これはアンケートはどのくらい対象者がおって、どのぐらいな割合でこういう対象者の人のするんですか。

○健康増進課長（谷名菜穂子君） はい。

○委員長（原田素代君） はい、谷名課長。

○健康増進課長（谷名菜穂子君） アンケートのほうは、第一次の健康増進計画を平成19年度に実施いたしております。そのときの調査数を参考に現在考えているところなんです。それで、子供に関しては小学校や幼稚園やそれから保育園との協力体制をして、できるだけたくさんのお子様の保護者の方に聞き取り調査といいますか、アンケートを配付しまして、それで回収をしていきたいなあというふうに考えております。また、このポイントにも示しており、組織団体等でこの夏ぐらいに集まれるいろんな教室だとか検診だとかに集まれるお母様とかには、積極的に聞き取りアンケートのようなことを進めていきたいと現在計画しております。また、一般の成人の方に関しましては前回のときと違うのは、最近データヘルス計画だとか、そういったいろんな計画、介護保険の事業計画だとかそういったことも実施しておりますので、その計画書との整合性もありますので、そこで聞き取りを行っているようなことはもうしなくてもいいかなというふうにも考えておりますので、そこである程度の分析も出ておりますので、そのあたりでもうしばらく成人の方向けには協議してアンケートを実施したいなあというふうに考えている最中です。

○委員長（原田素代君） よろしいですか。

○副委員長（福木京子君） はい。

○委員長（原田素代君） それでは、保健福祉部に關係してはもうよろしいでしょうか。あと、その他ということではほかに執行部の方から。

○市民生活部長（新本和代君） はい、委員長、市民生活部、新本。

○委員長（原田素代君） はい、新本部長。

○市民生活部長（新本和代君） それでは、その他のところに連携中枢都市圏の形成に向けた協議についてということで、少し御説明をさせていただけたらと思っておりますが。

○委員長（原田素代君） お願いします。

○市民生活部長（新本和代君） はい。それでは、まず資料の確認からさせていただきたいと思います。ダブルクリップでとめている資料でございます。最初に連携中枢都市圏の形成に向けた協議についてという資料、ホッチキスどめの資料、それから別添の1から別添の5までございますが、皆さんそろっておりますでしょうか。はい。それでは、説明をさせていただきます。

連携中枢都市圏の形成に向けた協議についてでございます。

お手元の資料の1ページ1の概要でございますが、岡山市を連携中枢都市とする連携中枢都市圏の形成に向けて岡山市、津山市、玉野市等の8市と、それから和気町、早島など5町、13市町間で協議を進めているところでございます。平成28年度、今年度でございますが、8月に岡山市による連携中枢都市宣言、9月に各市町で議決を得て、10月に岡山市と各市町との間で連携協約の締結、翌年3月に連携中枢都市圏ビジョンの策定を目指し、岡山都市圏連携協議

会を初めとして引き続き関係市町間で協議を行うこととしております。

次に、2の進捗状況についてでございます。昨年6月に事業採択を岡山市が受けられ、8月に第1回目の岡山都市圏連携協議会を開催しております。ここでは、連携中枢都市圏の形成に向けた進め方や各市町提案事業の検討状況について協議を行っております。また、10月から11月にかけて連携中枢都市圏の形成に係る基礎調査を実施し、公共施設等の利用に係る現状の調査分析を行っております。また、住民や企業にアンケート調査を実施しております。11月から12月にかけて、連携取組項目の一部施行実施ということで、モニタリングツアーを実施しております。ことし2月には第2回目の岡山都市圏連携協議会を開催しております。ここでは、昨年10月から12月にかけて実施いたしました基礎調査、モニタリングツアーの実施結果を初め、連携取組項目に係る協議経過報告、連携施策の概要説明、今後のスケジュール等について協議されました。

次に、連携取組項目の事業についてでございますが、恐れ入りますが、別添資料、別添3の連携取組項目（案）と記載された一覧表をごらんください。こちらの一覧表の事務事業名でございます。41事業という項目がございます。41事業の中で赤磐市として提案している事業、または参画している事業について、現在各担当分野と岡山市との間で協議を進めているところでございます。赤磐市として提案または参画している事業について抜粋したものが最初の資料でございます。連携中枢都市圏の形成に向けた協議についての2ページに一覧表がございます。2ページをごらんください。まず、提案している事業につきましては、資料のとおり7事業でございます。次に、参画している事業でございますが、12事業でございます。こちら12事業にこのたび新たに追加で5事業参画の申し入れをしております。なお、先ほど別添3、連携取組項目（案）の一覧には新たに追加で参画を申し入れたものにつきましては反映させておりませんので御了承ください。

続いて、3ページをごらんください。

4の今後の予定でございます。資料のとおり8月に岡山市による連携中枢都市宣言、9月には連携協約の締結に関する議決をいただく予定にしております。以下来年3月までの予定は資料のとおりでございます。

最後に、連携中枢都市圏の形成に係る基礎調査結果についてでございます。

昨年10月から11月にかけて岡山市が実施したアンケート調査について、赤磐市民及び赤磐市内の企業の回答について、別添1それから別添2の資料にまとめておりますので、ごらんください。

それでは、住民アンケートについて御説明をいたします。

資料、別添1の2ページをごらんください。

こちらの住民アンケートにつきましては、岡山都市圏内の住民の日常生活圏域の把握と今後の地域づくりのための必要な取組の把握を目的として実施しております。都市圏内の20歳から

70歳代の住民から無作為に抽出した対象者6,000人のうち、赤磐市につきましては400人にアンケートを送り、226人から回答をいただいております。

3ページ、4ページをごらんください。

市町連携が求められる分野といたしまして、3ページでは圏域全体の調査結果、4ページは赤磐市の調査結果となつとります。いずれも上位に上げられたのは医療、交通、公共施設で、今回主な調査テーマとしている3分野への住民の関心度の高さがうかがえる結果となっております。

次に、6ページをごらんください。

公共施設の利用状況と利用頻度についてでございます。公共施設の利用状況につきましては、全施設を通じて利用したことがないが約半数となっており、施設ごとでは図書館が1カ月に1回程度以上の利用頻度が28.8%と、他の施設に比べて高い施設となっております。

次に、7ページ、8ページにつきましては、公共施設の広域的な利用状況について各施設の利用率について示したものでございます。図書館、スポーツ施設については、岡山市の施設利用率が20%以上、文化ホール、コンベンション施設については40%となっております。

次に、9ページ、10ページをごらんください。

今後の公共施設について都市圏住民が望む維持管理方法について、圏域全体と同様近隣市町と施設を共同で利用が64.6%と最も高い比率でした。また、市町間で共同利用を進めるべき公共施設についても、圏域全体と同様にスポーツ施設が最も高い数値となっております。

続きまして、11ページをごらんください。

高度医療機関の広域利用状況についてでございます。赤磐市は40%以上が岡山市に通院しております。

次に、14ページをごらんください。

救急医療への不安と今後のあり方についてでございます。赤磐市の住民が不安を抱える救急医療に関する不安について、最も高かったのは夜間・休日の救急体制で、58.7%でした。また、今後充実すべき医療体制については、最後まで住みなれた地域で療養できる体制が63.6%と最も高い数値でございました。

次に、15ページ、16ページをごらんください。

近隣市町村への交通手段の利用状況についてでございます。圏域全体と同様、車利用が主なものとなっております。路線バスについても広く利用されております。

18ページをごらんください。

地域生活交通の利用と今後のあり方についてでございますが、地域生活交通を利用する理由として最も比率が高かったのは、自宅、目的地の近くにバス停があり便利という理由で64.3%でした。次いで、徒歩、自転車で行くには遠いが50%で、自動車で送ってくれる人がいない、運賃が安い、自動車がない、免許がないと続いております。地域生活交通に希望することとい

たしましては、運行日、運行時間の見直しが64.3%と最も高く、次いで現状の維持、運行経路の見直しなどとなっております。

続いて、企業アンケートについて説明をさせていただきます。

別添2の資料の1ページをごらんください。

企業アンケートにつきましては、岡山都市圏に本社を置く企業について、経営状況や経営上の課題、公的産業振興策のあり方について把握することを目的に実施しております。調査対象となる企業から無作為に1,000社を抽出しております。このうち赤磐市の企業32社にアンケートを発送し、18社から回答をいただいております。

では、3ページをごらんください。

企業活動の状況について、最近5年の売り上げ傾向は増加傾向あるいは横ばいと回答した企業が9割で、減少傾向と回答した企業は約1割でした。今後5年の経営戦略における課題としましては、圏域全体と順位は同じで人材の育成が5割と最も多く、人材を経営戦略の課題としている企業が多いことがうかがえます。

次に、4ページをごらんください。

企業活動における岡山都市圏域の強みについてです。これは圏域全体の回答となっており、約5割の企業が交通の便がよい、あるいは災害リスクが低いことを強みと考えており、他の項目と比べ圧倒的に多い結果となっております。一方で、人的な面では低い結果が出ております。

次に、7ページをごらんください。

公的な産業支援策ですが、公的産業振興策として期待するものは人材確保に対する支援が33.3%、人材育成に対する支援が27.8%と、人材に関する項目が上位となっております。また、公的産業振興策についての関心度について、最も関心が高いのはセミナー、研修会、次いで採用時の人材マッチング専門家の派遣相談制度と続いており、人材分野への関心が高い結果となっております。ヒアリングの結果につきましては、8ページから10ページにかけて記載しております。それから、10ページの赤字の部分が、赤磐市の企業が今後希望している公的産業支援についての意見でございます。それから次に、別添4では、岡山市中枢連携都市圏全体の概要について、岡山市が取りまとめたものでございます。また、別添5に連携中枢都市圏形成までのスケジュール（案）でございます。また後ほどごらんいただけたらと思っております。

説明は以上でございます。

○委員長（原田素代君） ありがとうございます。大変重要なデータといたしますか、情報だと思えます。担当委員会ではないのですが、前回の本会議場での議論の中でこういったデータが出ているという議論がありましたので、きょうは部長のほうに資料の用意と説明をお願いしました。また、ぜひ皆さんのほうで活用していただければと思えます。

その他ありますか、執行部。

○健康増進課長（谷名菜穂子君） はい。

○委員長（原田素代君） はい、谷名課長。

○健康増進課長（谷名菜穂子君） 失礼します。お知らせがあります。情報提供なんです、熊山にあります景山医院の閉院のお知らせです。先月5月31日付で閉院されるということの連絡を前日に受けて、初めて行政のほうも知りました。医師会にもすぐに確認をとり、あと調整をとってくださったということで、閉院されたということを皆様に御連絡したいと思います。

以上です。

○委員長（原田素代君） 何かこれに、景山医院が閉院されることによる影響ってというのは、特段市のほうは聞いてませんか。

○健康増進課長（谷名菜穂子君） はい、委員長。

○委員長（原田素代君） はい、谷名課長。

○健康増進課長（谷名菜穂子君） 熊山地域に熊山の診療所と2院だけだったので非常に私たちも心配したんですが、診療所のほうは6月初め最初のうちは大体2人から3人程度景山医院さんにかかっていた方だと思われる方が受診されており、急激に何十人も来るというようなことはなかったので、今のところ落ちついた状況で診療は続けております。ただ、先生が赤磐医師会の中で当番医を受けてくださったりだとか、地域の学校医にもなったりとかということがありますので、今後そちらのほうは医師会やさまざまな関係機関と協力しながら進めていくというところです。

○市民課長（作本直美君） はい、委員長、今のに。

○委員長（原田素代君） よろしいですか、谷名課長。

○健康増進課長（谷名菜穂子君） はい。

○委員長（原田素代君） はい、作本課長、お願いします。

○市民課長（作本直美君） 景山医院さんにつきましては、特定健診のほうも実施機関に入っただいておりました。個別健診のほうで、ずっと御協力をいただいております。先週、特定健診の御案内を各被保険者の方にお送りしてございまして、その中にはまだ情報がこちらのほう得れておりませんでしたので、とりあえず景山先生のお名前が入った状況で出させていたしております。今後新しくお配りする方につきましては、そこの部分を削除したもので対応させていただくということで、急遽そのような状況を伺ってこちらのほうの対応とさせていただきます。

以上でございます。

○介護保険課長（藤原康子君） はい、委員長、介護保険課長、藤原です。

○委員長（原田素代君） はい、藤原課長。

○介護保険課長（藤原康子君） 済みません。景山医院の閉院につきまして、景山医院のほうは母体となりまして、デイサービスセンター碧苑というものを開設されておりました。このこ

とにつきましては、定員が12人でございますので地域密着型でございます。それぞれ先生のほう、後ほどの報告なんですけれども、利用されてました地域、赤磐市内外の方々につきましては他のデイサービスに御紹介なりで、デイサービスにつきましても利用者の方々はこの6月中にうまいことほかのところに御利用ということになります。一応このデイサービスにつきましては、7月6日に休止という形で、7月7日から12月31日（後刻訂正）まで休止ということのうちほうには届け出が出ております。休止ということは、もし状況によっては開始ができるということです。

以上です。

○委員長（原田素代君） それは、デイサービスに限るものですね。

○介護保険課長（藤原康子君） そうです、デイサービスに限っての休止ということです。

○委員長（原田素代君） 事情はよく聞いてあげてください。市のほうも組み込んだもう事業は発信しちゃってるわけですから、どの方が担当になるか景山先生のほうに意向をよくお聞きになっていただいて、信頼関係をきちっとつくっていただければと思います。

○介護保険課長（藤原康子君） はい、委員長。

○委員長（原田素代君） はい、藤原課長。

○介護保険課長（藤原康子君） 先ほど申しました休止の予定期間を12月31日と申しましたけど、12月6日までということで御報告受けとります。先生のほうが休苑ですので、先ほど申しましたようにどのようになるかはよくわかりませんが、休止の届出書にはそのような書面となっていました。

以上です。

○委員長（原田素代君） わかりました。何か御都合があるのかなと思いますが、よろしく意思疎通はしてください。

ほかには、執行部のほうからありませんか。委員の皆さんのほうから何か、その他ですのであれば。

○委員（丸山 明君） 保健福祉部について。

○委員長（原田素代君） いやいや、もうその他ですから何でもいいんです、委員会絡みのことで。

○委員（丸山 明君） ちょっと言ってもよろしい。

○委員長（原田素代君） はい、丸山委員。

○委員（丸山 明君） 山陽団地の近くの老人センターが新しくリニューアルするんですけど、それでちょっと1件簡単に、簡単にというかお聞きするんですけど、福祉避難所ということで指定をされて運営をされていくというのをお聞きしております。それで、僕が気にしたのは、福祉避難所は要するに災害時の福祉避難所ということですから、これは指定をしたらそれでオーケーということではないんです。熊本の地震でもニュースになっておりましたが、自宅

で介護とか医療介護を受けてる人たち、支援を受けてる人たちの緊急時の福祉避難所ですが、そこに駆けつけて車で運ばれたらそれでオーケーかといったらそうじゃないわけです。今、運営主体が何かNPO法人ですか、いうふうな形になってると思うんですけど、どこが担うにしてもふだんからもし緊急のときには民間の団体にしろ医療機関にしろ必要なわけです。もう即日、次の日、あるいは緊急に支援を講じていかないといけないということだと思っんですけど、そのあたりのことはどういうふうになってるのかなというふうに思ったもんですから、それだけちょっと。そんなに詳しくじゃなくて結構なんで、どういうふうなおつもりで今やられてるというのを教えてください。

以上です。

○社会福祉課長（国正俊治君） 委員長。

○委員長（原田素代君） はい、国正課長。

○社会福祉課長（国正俊治君） まず、福祉避難所の指定につきましては、この老人福祉センター、それからそのほかの介護老人福祉施設、特別養護老人ホームなどと協定を結ばさせていただいております。この老人福祉センターと他の特別養護老人ホーム等々、運営の仕方がちょっと異なっております、まず老人ホームにつきましては食堂娯楽室のような空きスペースを利用して、向こうの職員さんに避難した方の介護をしていただくという仕組みになっております。老人福祉センターにそれじゃあ人がいるかというといませんので、こちらにつきましては市のほうが避難所の運営スタッフを送り込むというふうなお約束になっております。具体的に言いますと、市のほうで防災対策本部が設置されまして、我々が福祉避難所の運営に配置されていかざるを得ないというようなこととなります。じゃあ本当に運営できるかっていうとなかなか厳しい問題がございまして、これは御指摘のようにしっかりした訓練、シミュレーションをしなければ、シミュレーションをしていたところで予想外のことが起こるわけでございます。くらし安全課を中心にしっかりとした対策、体制をとっていくようしなければならぬというふうに感じております。具体的にそれじゃあ今すぐ起きて大丈夫かという、僕は正直申し上げますが大変不安がございまして、しっかり取り組んでまいりたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

○委員長（原田素代君） はい、丸山委員。

○委員（丸山 明君） 大丈夫じゃないということだと思っんです。それはもうまさに僕もよくわかります。私もあの記事読んだりして、それこそ熊本でもDCATっていう災害派遣福祉チームっていうのをつくっていて、いざ何か災害が起きた、益城町ではそういうチームが奮闘中です、今。だから、そういうのを災害を予測というよりも、ふだんからつくっておいて何か起きたらすぐその施設に送り込むというのが一番いいやり方なんだろうと思っんで、ぜひそういう意味では災害はいつ起こるかわかりませんので、今心配ですっていうのはまさに何か起こったらもうお手上げの状態になると思っます、それは。まさに、何もないわけですから、具

体的なノウハウっていうかチームがないわけですから。だから、そういうことでぜひそのあたりいろいろな何か経験を書いたものがありますんで、そういうものをもうもちろん御存じやと思うんで早急にといいますか、災害ですからせつかく避難所はあるんですから、そこにちゃんと運営主体というものを明確にして送り込めるということまでがお仕事だと思います。よろしくをお願いします。

○委員長（原田素代君） よろしいですか。

○委員（丸山 明君） はい。

○委員長（原田素代君） じゃあ、ほかの委員の皆さんもよろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） その他についてももうないようですので、以上をもちまして第6回厚生常任委員会を閉会いたしたいと思います。

閉会に当たりまして、内田副市長より御挨拶をお願いします。

○副市長（内田慶史君） はい、委員長。

○委員長（原田素代君） はい、内田副市長。

○副市長（内田慶史君） それでは、本日は当委員会に付託されました議第43号一般会計補正予算（第2号）につきまして慎重審議の上、決定をいただきまして大変ありがとうございました。お礼を申し上げます。現在、各部署におきましては、平成28年度の事業に着手をいたしておりますが、特に本日御指摘をいただきました赤坂地域の統合保育園につきましては入札の不落に関しまして課題、問題もございます。本日いただきました御指摘を十分踏まえまして、当初の目標に向けまして最大限の業務努力をしてまいりたいというふうに考えております。今後も委員皆様方に十分なる説明とそして御意見等々賜りながら事業の推進を図っていききたいというふうに思います。今後ともひとつどうぞよろしくお願いをいたしたいと思います。

以上でございます。本日は大変ありがとうございました。

○委員長（原田素代君） ありがとうございました。

これで本日の委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

午前11時21分 閉会